

TOPICS
1

トピックス…①

平成26年度牛乳・乳製品の消費
動向に関する調査の結果概要

独立行政法人農畜産業振興機構は本年4月、平成26年度の牛乳・乳製品の消費動向に関する調査結果を公表した。同調査では、消費構造の変化や消費動向を把握し、牛乳・乳製品の消費拡大に向けた取組などに役立つ情報を得るため、全国（沖縄県を除く）の中学生以上の男女3,200人を対象として、平成26年10月から11月にアンケート調査を実施した。ここでは、白もの牛乳類等に関する消費構造や消費動向の調査結果を紹介する。

白もの牛乳類をほぼ毎日飲む人は41%

白もの牛乳類（牛乳、低脂肪乳、無脂肪乳、栄養成分強化牛乳）を「毎日飲む人」は32.6%、「週に5～6日飲む人」は7.9%で、「ほぼ毎日飲む人」の割合は40.5%であった。この「ほぼ毎日飲む人」の割合は、平成17年以降減少傾向が続いており、平成26年は前年より1.7ポイント減少した。

なお、「ほぼ毎日飲む人」の割合は男女とも中学生で高く、それぞれ77.5%、67.5%であったが、男子中学生では前年より40ポイント増加したのに対して、女子中学生では30ポイント減少した。なお、男性の20～50代と女性の10代（中学生除く）～20代では、「ほぼ毎日飲む人」の割合が、性別の全体平均を下回っている。他方、白もの牛乳類を「全く飲まない人」の割合は、平成17年以降増加傾向が続いており、平成26年は18.6%で、前年を28ポイント上回った。

1日あたりの平均飲用量は微減傾向が続く

白もの牛乳類を飲んでいる人の1日あたりの飲用量は、全体では微減傾向が続き、平成26年は175mlで前年を3ml下回った。性別では、男女ともに微減傾向が続いている。

性年代別にみると、飲んでいる人の割合が増加している男子中学生でも、1日あたりの飲用量は微減し、女子中学生は他の年代に比べて1日あたりの飲用量が多いものの、減少幅は年々大きくなっている。

白もの牛乳類の飲み方に大きな変化はみられない

白もの牛乳類の飲み方は、「そのまま飲む」飲み方で「毎日飲む人」の割合は22.9%、「他のものと混ぜて飲む」飲み方で「毎日飲む人」の割合は19.1%となっている。過去3年間の変化を飲み方別にみると、「そのまま飲む」、「他のものと混ぜて飲む」とともに、平均飲用頻度に大きな変化はみられず、「毎日飲む人」の割合も前年とほぼ同程度になっている。

また、夏場と冬場の飲用頻度を比べると、「そのまま飲む」飲み方は、「他のものと混ぜて飲む」飲み方より、季節による変動がやや大きくなっている。

飲用シーンのトップは「朝食をとりながら」

白もの牛乳類を飲むシーンとしては、「朝食をとりな

がら」を筆頭に、「おやつや間食時」、「のどが渴いたとき」が多くなっている。過去3年間でも、飲用シーンの上位3シーンの順位には変化がみられないものの、「朝食をとりながら」をのぞいて、ほとんどの飲用シーンが前年のスコア（選択率）を下回った。

飲用理由のトップは「カルシウムがあるから」

白もの牛乳類を飲む理由で最も多いのは「カルシウムがあるから」（42.0%）で、次に「栄養があるから」（36.6%）、「おいしいから」（26.4%）、「好きだから」（24.9%）が続いている。しかし、「カルシウムがあるから」が51ポイント、「他のものと混ぜたりする」が69ポイントと、前年より大きく低下している。

飲まない理由のトップは「牛乳を飲むとお腹の調子が悪くなるから」

白もの牛乳類の「飲用量が減少した」あるいは「もともと飲まない」という人が、その理由として「牛乳を飲むとお腹の調子が悪くなるから」を選択した割合は、38.7%でもっとも高い。「牛乳は味にクセがあるから」（38.0%）、「牛乳は飲んだあと口に残るから」（37.3%）、「牛乳のニオイが嫌いだから」の順で続いている。

ヨーグルトを毎日飲食する人は19.5%

ヨーグルトを「毎日飲食する人」は19.5%、「週に5～6日飲食する人」は5.6%で、「ほぼ毎日飲食する人」の割合は25.1%であった。この「ほぼ毎日飲食する人」の割合は、前年に比べて3.1ポイントと増加した。

飲食するヨーグルトのタイプは、「プレーンヨーグルト（無糖）」が49.5%でもっとも多く、「加糖ヨーグルト」（35.5%）、「果肉入りヨーグルト」（31.4%）、「ドリンクヨーグルト」（22.0%）と続いている。飲食するヨーグルトのタイプを前年と比較すると、「プレーンヨーグルト」が5.4ポイント増加したのに対して、「加糖ヨーグルト」が3.9ポイント、「果肉入りヨーグルト」が5.3ポイント減少している。